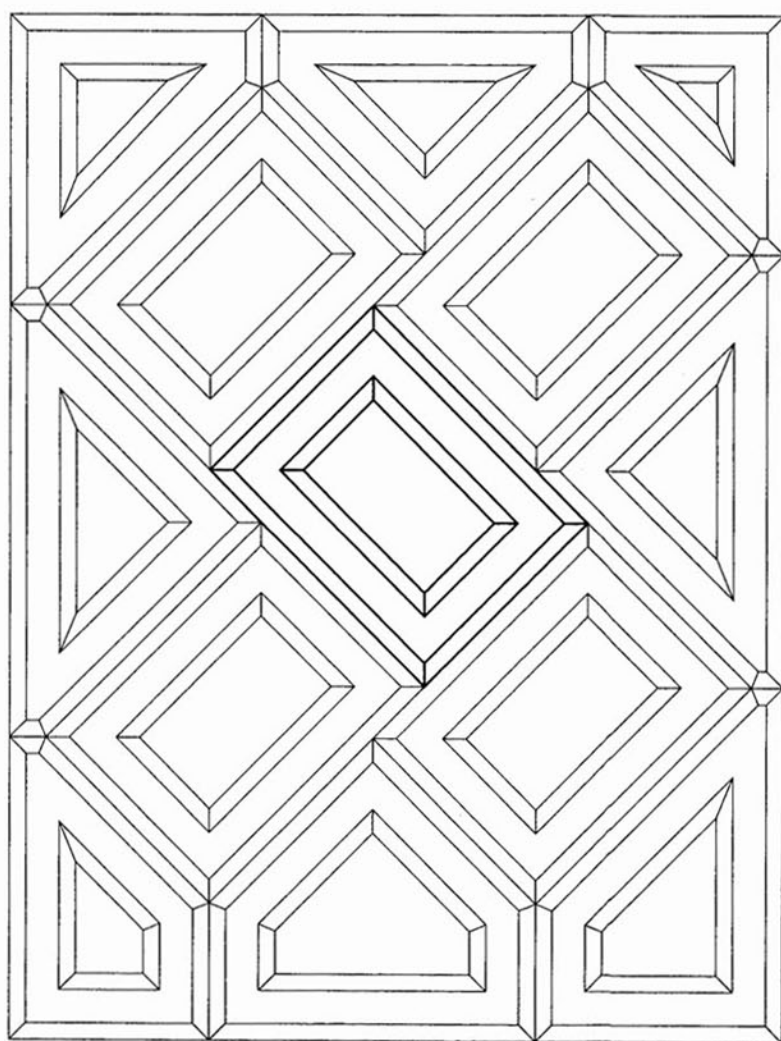


大分県型積ブロック カ タ ロ グ



株式会社 友岡組
大野生コン 三重工場



Tomooka

「大分県型積ブロック」について

大分県型積ブロックは、当組合設立当初からの計画であり、かねてから大分県関係ご当局のご指導を戴くと共に施行業者各位のご教示等も得、さらに日本工業規格 J I S A5371に合致するよう鋭意研究を重ねた結果、積ブロック「大分県型」を決定することが出来ました。

当組合としては、傘下各工場において厳しい品質管理のもとで、同一型式のものを製造して需要者各位のご要望に応えることになりましたので、一層のご愛顧を賜われますようお願い致します。

〔主たる用途〕

河川工事	護岸工・法覆工
道路工事	山留工・法工
橋梁工事	取付道法留工
海岸工事	護岸工・堤防工
砂防工事	道路工・護岸工
治山工事	堰堤工
灌漑工事	水路装工
鉄道工事	山留工・法留工駅ホーム
宅地造成工事	法留工

目 次

〔滑面大分県型〕

基 本 型 (略称 3 A型)	1
根石天端型 (略称 B型)	2
側 石 型 (略称 C型)	2
隅石型大 (略称 D型右・左)	2 ~ 3
隅石型小 (略称 E型右・左)	3

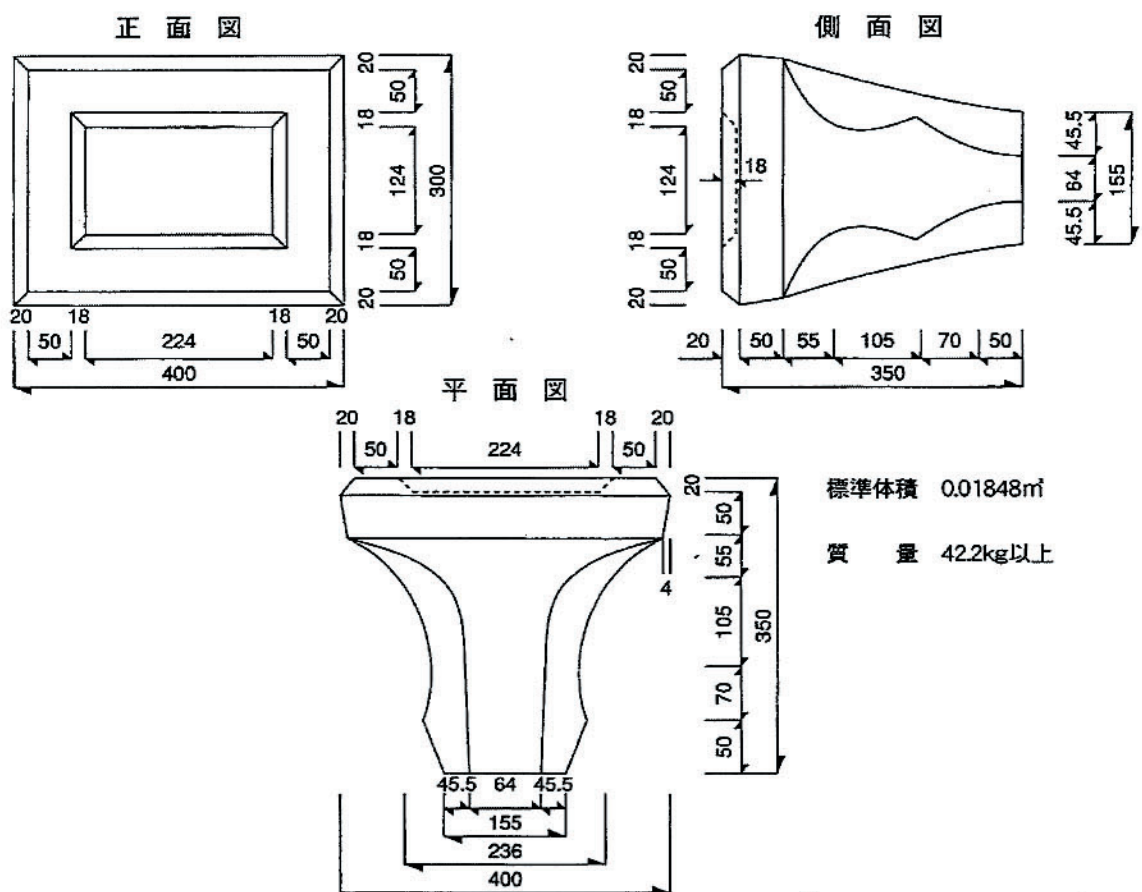
〔粗面大分県型〕

基 本 型 (略称 3 A型)	4
根石天端型 (略称 B型)	5
側 石 型 (略称 C型)	5
隅石型大 (略称 D型右・左)	5 ~ 6
隅石型小 (略称 E型右・左)	6
谷 積 正 面 図	7
A. —A断面	7
谷積段割法長表	8
谷積段付調整図	9
積 算 資 料	10 ~ 11

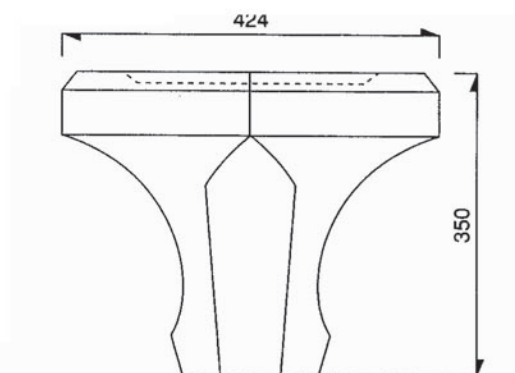
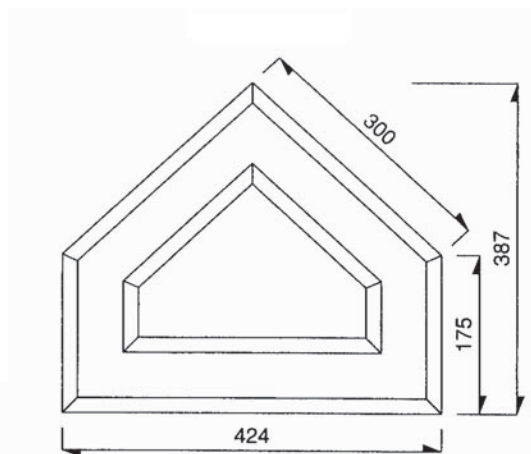
[滑面大分県型]



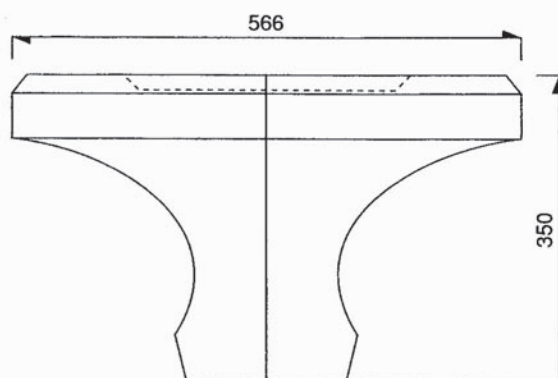
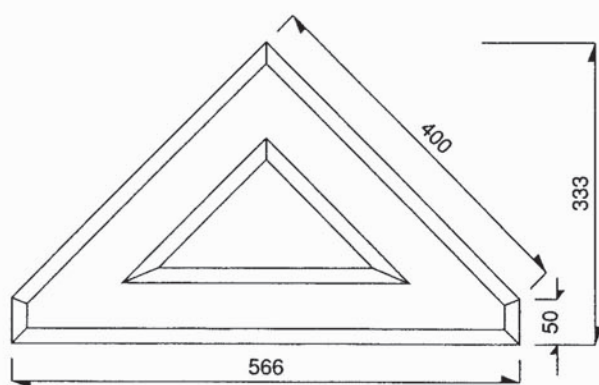
基本型(略称 3A型)



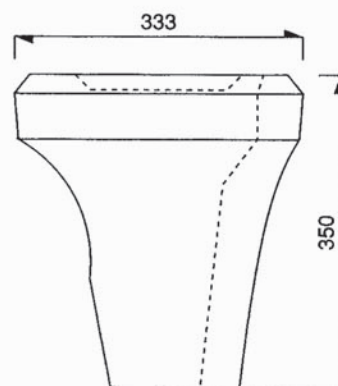
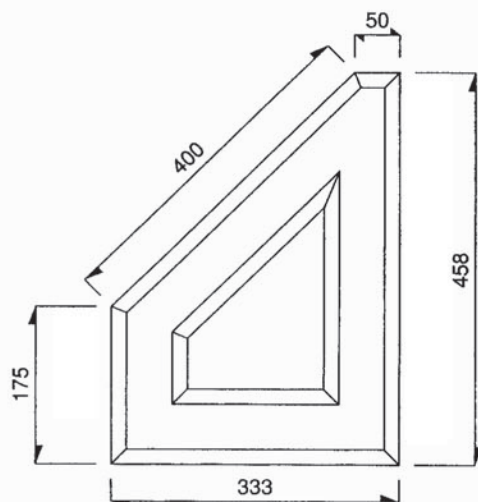
根石天端型(略称 B型)



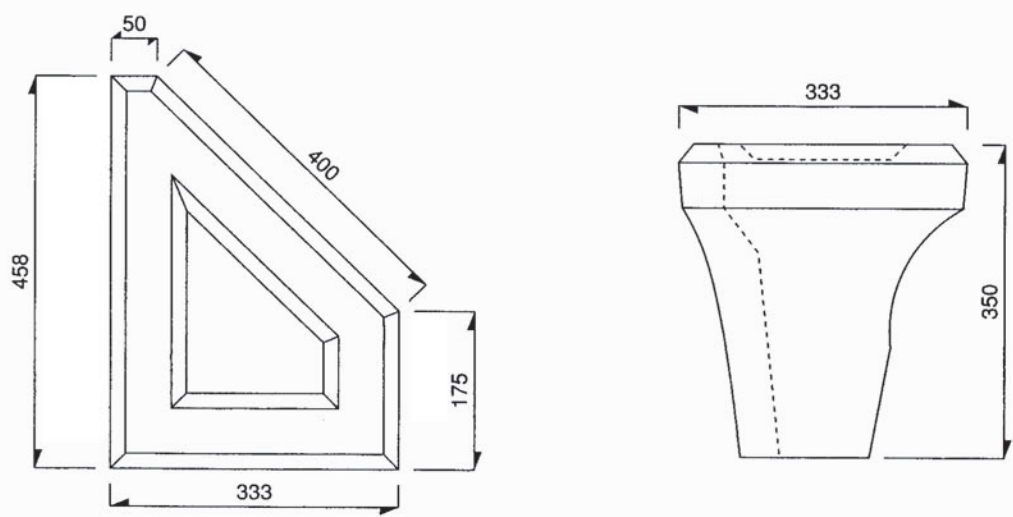
側石型(略称 C型)



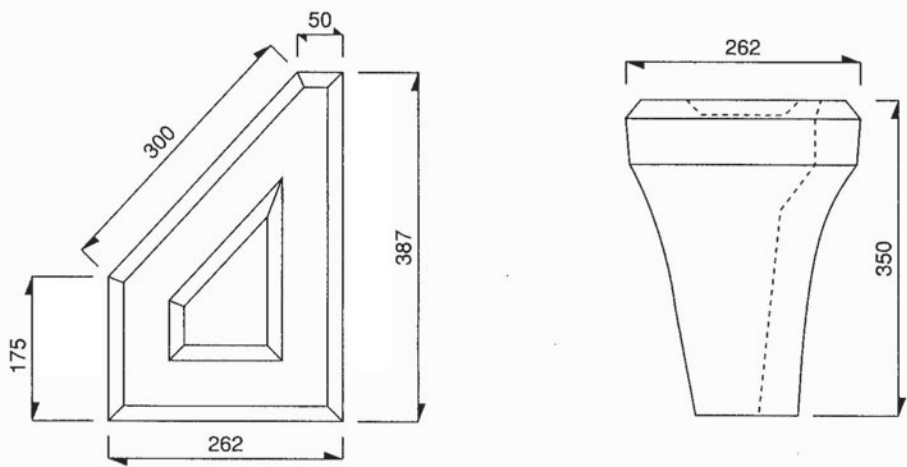
隅石型大(略称 D型右)



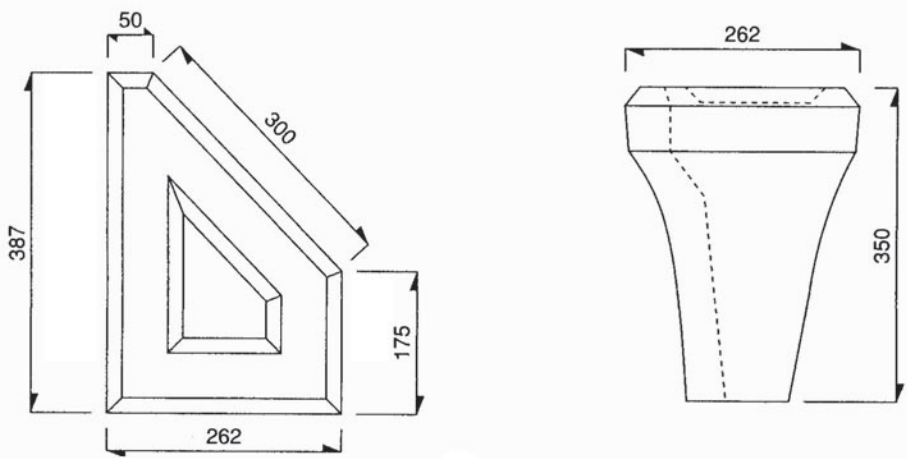
隅石型大(略称 D型左)



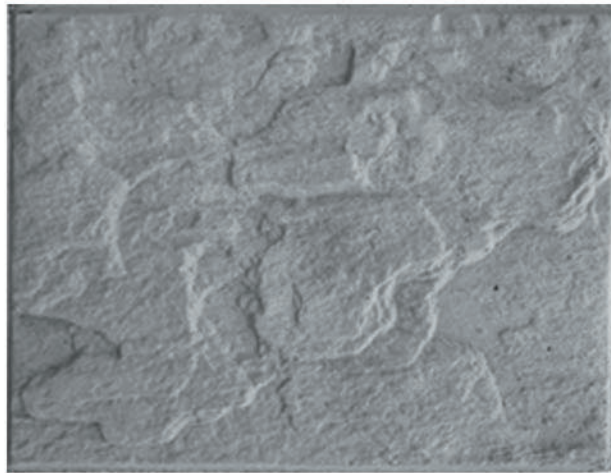
隅石型小(略称 E型右)



隅石型小(略称 E型左)

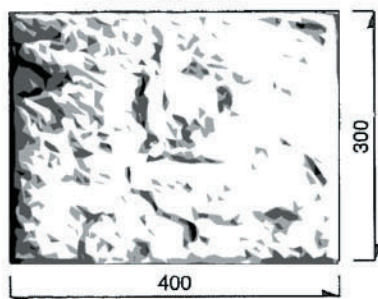


[粗面大分県型]

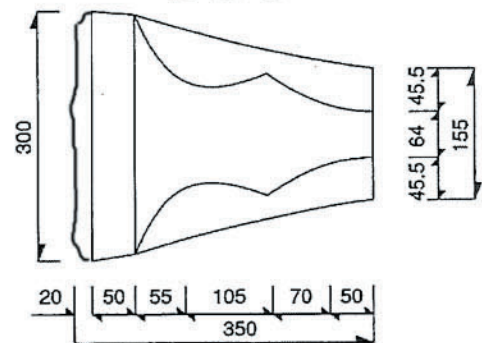


基本型(略称 3A型)

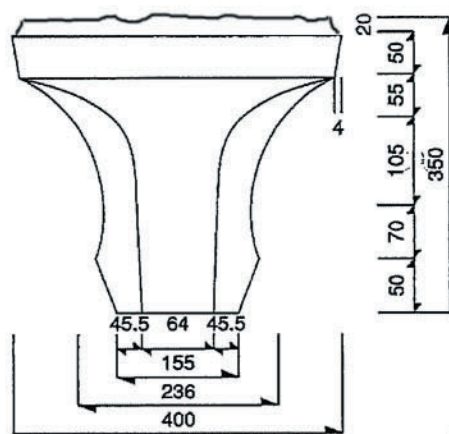
正面図



側面図



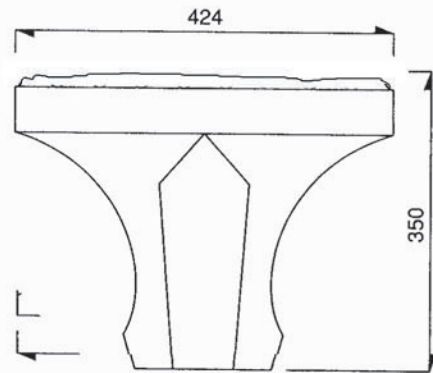
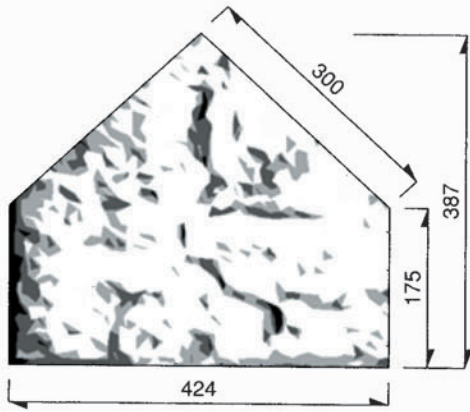
平面図



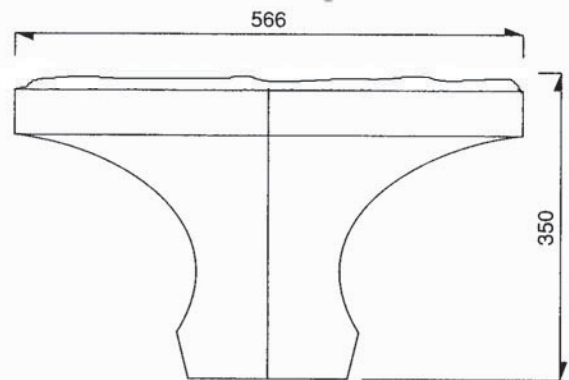
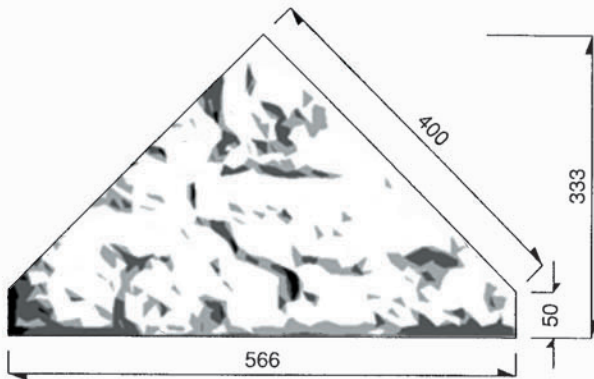
標準体積 0.01848m³

質量 42.2kg以上

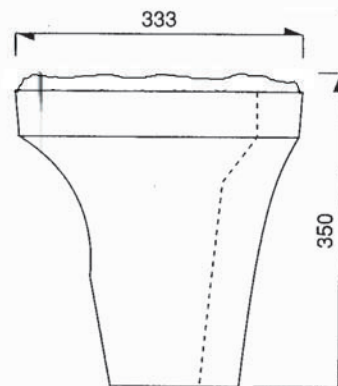
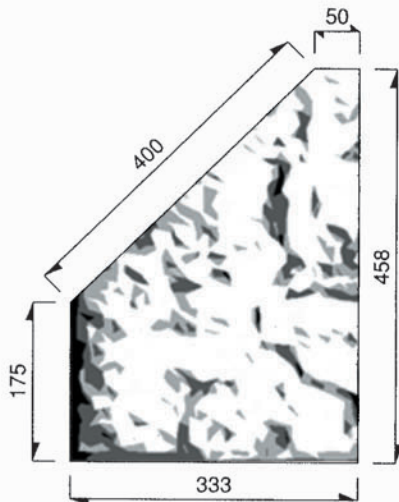
根石天端型(略称 B型)



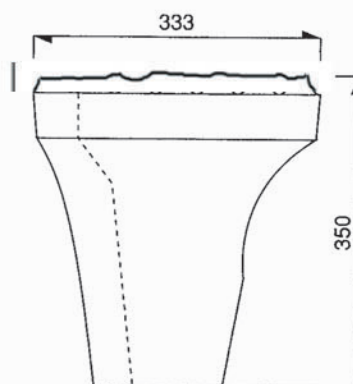
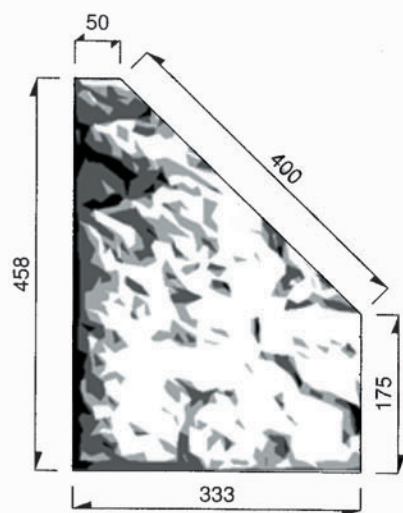
側石型(略称 C型)



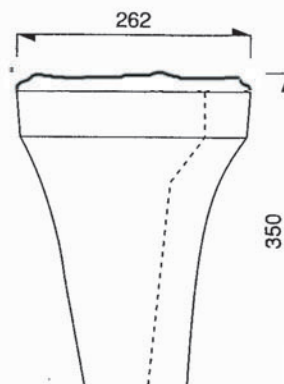
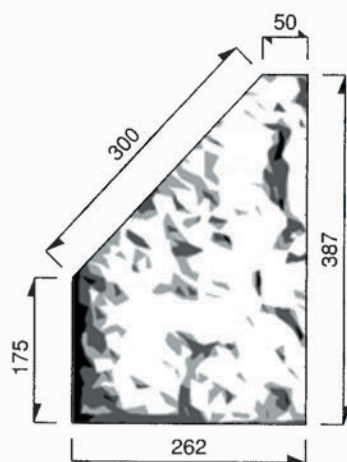
隅石型大(略称 D型右)



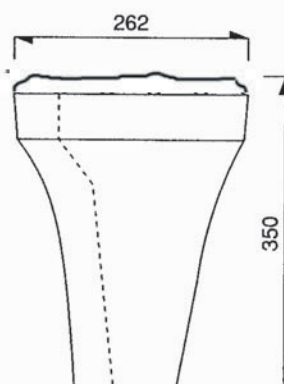
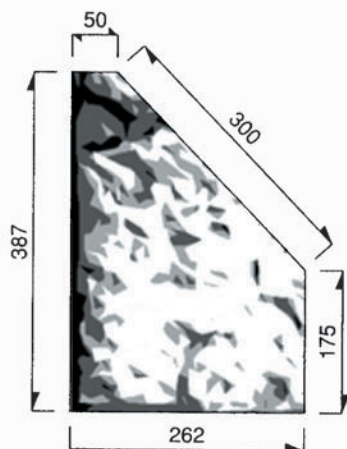
隅石型大(略称 D型左)



隅石型小(略称 E型右)

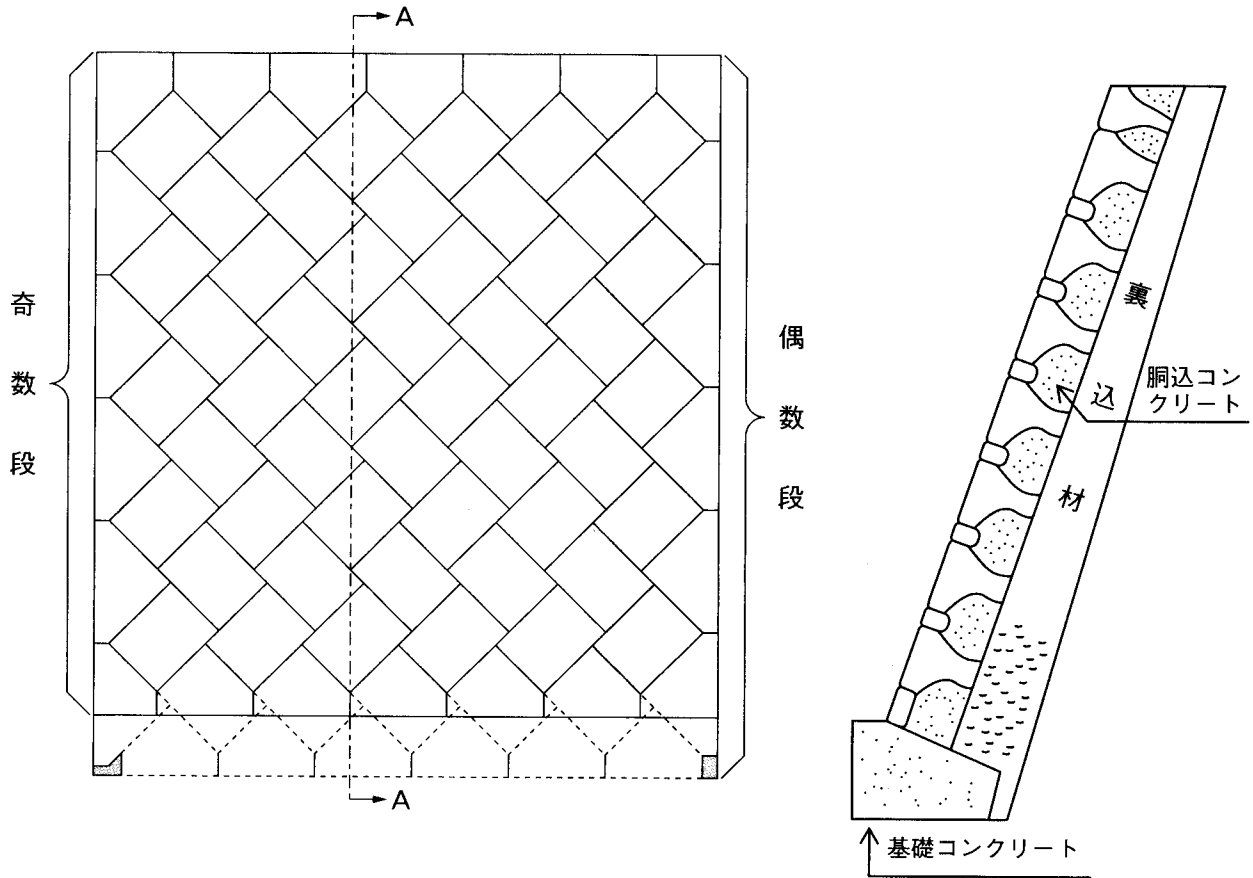


隅石型小(略称 E型左)



谷 積 正 面 図

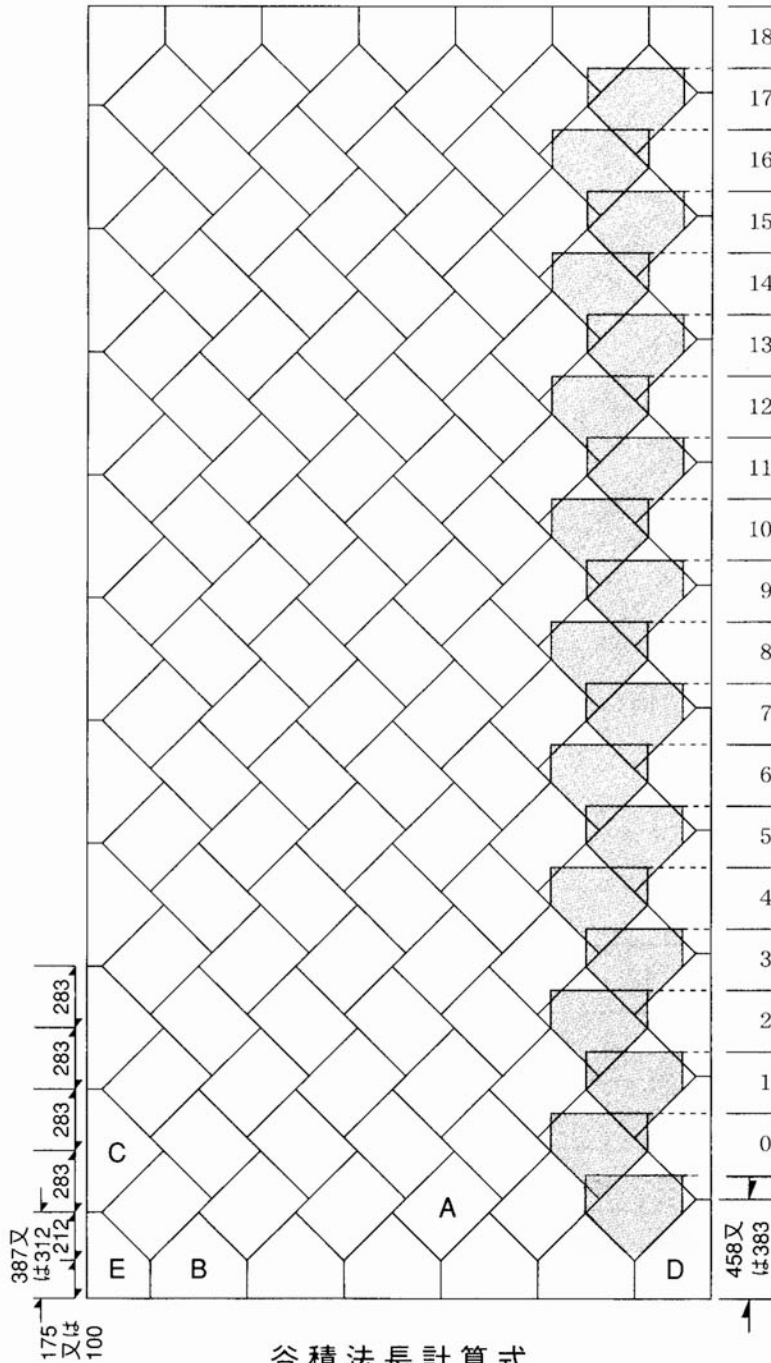
A . - A 断 面 図



	大 分 県 型	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
参 考 歩 掛	ブ ロ ッ ク	控35cm (m ² 8.33)	m ²	10.00			
	世 話 役		人	0.20			
	特 殊 作 業 員		人				
	ブ ロ ッ ク 工		人	0.70			
	普 通 作 業 員		人	1.20			
	胴込コンクリート	18N/cm ²	m ³	1.90			
	トラッククレーン	15~16t 吊り	日	0.40			
	諸 雑 費		式				
	計						

谷積段割法長表

(単位：cm)



段数	B175+B175
19	593.9
18	565.6
17	537.3
16	509.0
15	480.7
14	452.4
13	424.1
12	395.8
11	367.5
10	339.2
9	310.9
8	282.6
7	254.3
6	226.0
5	197.7
4	169.4
3	141.1
2	112.8
1	84.5
0	56.2

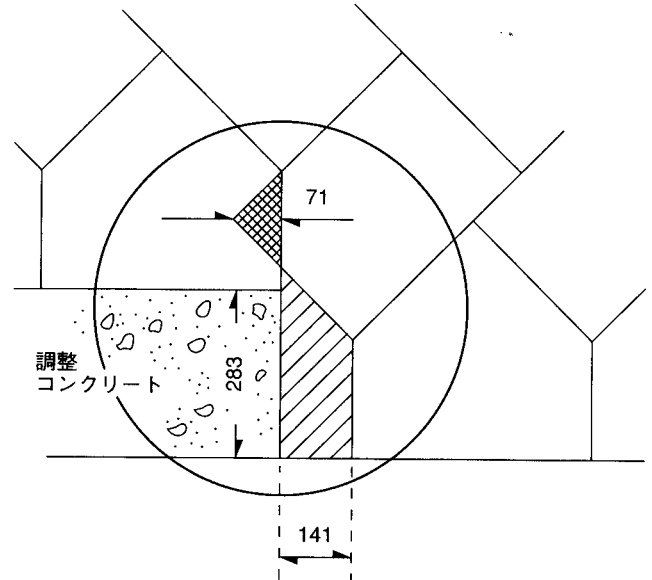
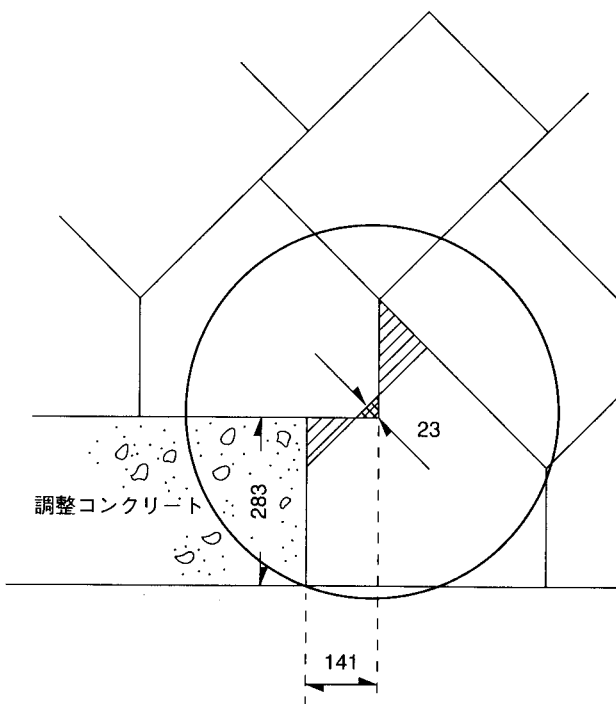
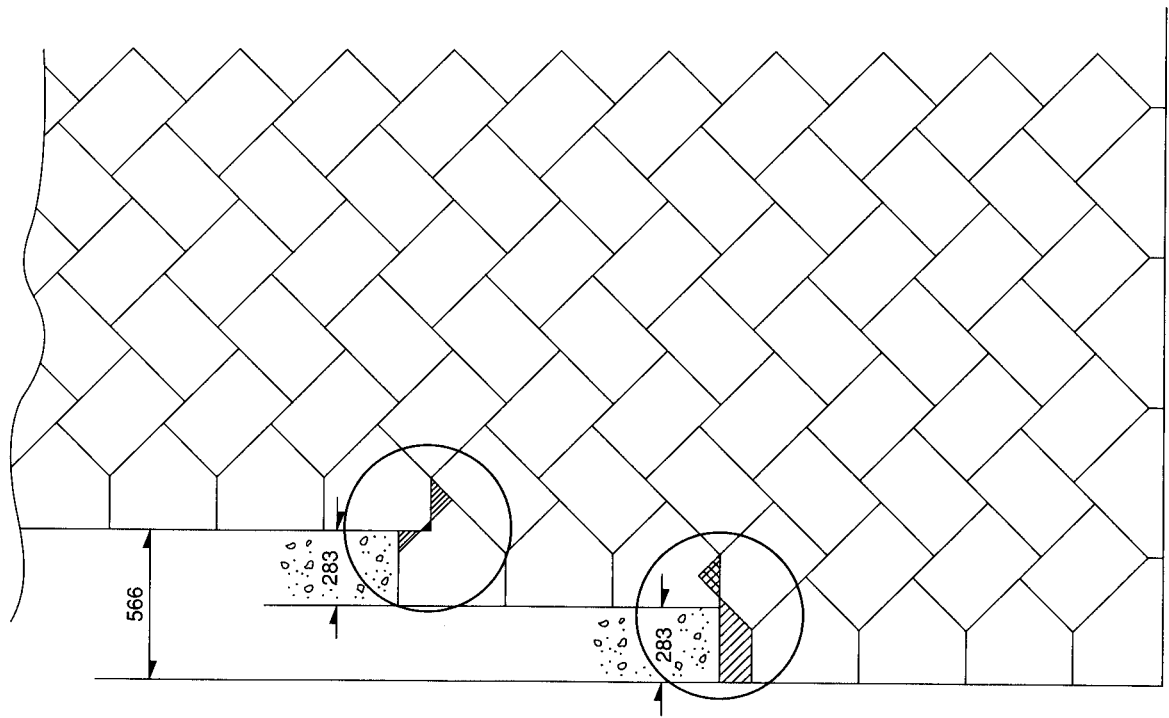
谷積法長計算式

① 根石天端B175使用の場合

$$\text{法長 } h = 175 + \frac{300}{\sqrt{2}} + \frac{400}{\sqrt{2}} n + 175$$

(注) 積上り段数はA型のみを言い、
法長は根石・天端型を含んだもの
です。
上表の法長寸法には、目地誤差
は含んでおりません。

谷積段付調整図



注：斜線部分は現場打ち

部分はブロックをかぎとる。

積 算 資 料

I 勾配による半径の補正

基礎面の半径 = R

基礎面からの高さ h に於ける半径 = R_1

$$\therefore R_1 = R - a$$

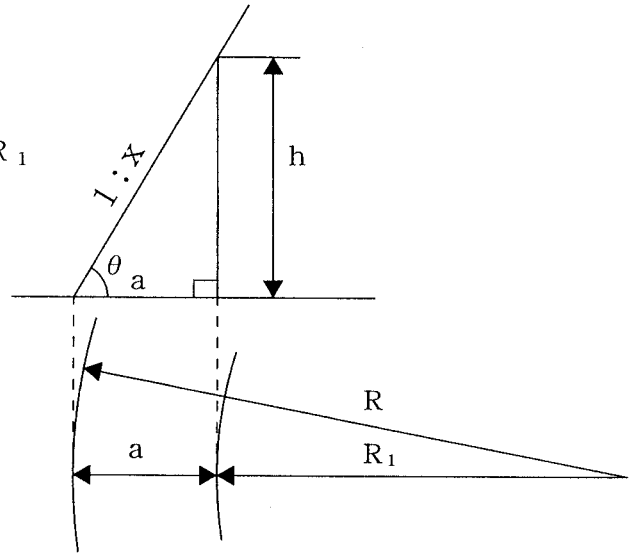
右図に於いて

$$x = 3 \text{ 分勾配}$$

$$\theta = 73^\circ 18'$$

$$h = 4 \text{ m}$$

$$a = \frac{4 \text{ m}}{\tan \theta} = \frac{4}{3.333} = 1.20 \text{ m}$$



下表は各々の直高と勾配による a の数値である。

h	3 分勾配	4 分勾配	5 分勾配	h	3 分勾配	4 分勾配	5 分勾配
0.5	0.15	0.20	0.25	5.5	1.65	2.20	2.75
1.0	0.30	0.40	0.50	6.0	1.80	2.40	3.00
1.5	0.45	0.60	0.75	6.5	1.95	2.60	3.25
2.0	0.60	0.80	1.00	7.0	2.10	2.80	3.50
2.5	0.75	1.00	1.25	7.5	2.25	3.00	3.75
3.0	0.90	1.20	1.50	8.0	2.40	3.20	4.00
3.5	1.05	1.40	1.75	8.5	2.55	3.40	4.25
4.0	1.20	1.60	2.00	9.0	2.70	3.60	4.50
4.5	1.35	1.80	2.25	9.5	2.85	3.80	4.75
5.0	1.50	2.00	2.50				

Ⅱ 曲線部に於けるブロック積

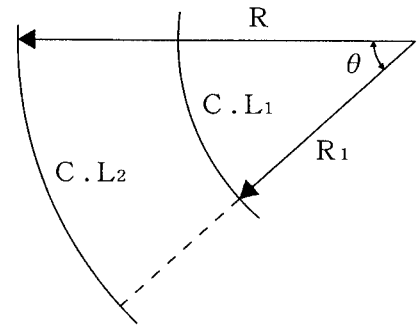
曲線長(C. L)

$$C. L_1 = 2 R_1 \pi \times \frac{\theta}{360} \text{ 但し、} \pi = \text{円周率}$$

$$C. L_2 = 2 R \pi \times \frac{\theta}{360}$$

C. L₁は外曲線の場合は、天端・内曲線の場合は根石

$$C. L_2 - C. L_1 = x$$



このxは根石曲線長と天端石曲線長との差であって、此の差をブロックの配置によって詰めなければならない。

(1) 谷 積

$\frac{C. L_2 - C. L_1}{C. L_1 \text{に割当てたB型個数}}$ によりC. L₂於ける目地の間隔を知ることができる。この目地を詰めるためには理論上それに適合するような異形ブロックを製作使用すればよいが、実際施工に際しては不可能に近いので、やはり正規のブロックを用いなければならない。目地の間隔には胴込コンクリートをよく充填し、ブロック相互の一体化を計るよう施工すべきである。

特に、外曲線の場合は擁壁が弱くなる欠点があるので、裏込コンクリートを施工するのがよい。

曲線部の積上げは、特に熟練した積工によらなければならない。

(2) 計 算 例

$$\theta = 120^\circ \quad R_1 = 30 \text{ m} \quad R = 31.6 \text{ m} \quad \text{ブロック積直高} = 4 \text{ m} \quad \text{法勾配} = 4 \text{ 分}$$

$$C. L_1 = 60 \times 3.14 \times \frac{120}{360} = 62.80 \text{ m} \quad C. L_2 = 63.2 \times 3.14 \times \frac{120}{360} = 66.15 \text{ m}$$

$$66.15 - 62.80 = 3.35 \text{ m}$$

$$62.80 \text{ に対し B 型ブロック (基礎型) を配置すれば } \frac{62.80}{0.424} \doteq 148 \text{ 個} \quad \text{根石の目地の開きは}$$

$$\frac{3.35 \text{ m}}{148 \text{ 個}} \doteq 0.022 \text{ m} \text{ 根石の目地を } 0.022 \text{ m} \text{ 練積として、逐次積上げてゆく。}$$